

様式第7号ア（認定を受けようとする課程を有する大学・学科等における教員養成の目標等に関する書類）

（1）大学・学科の設置理念

①大学

“新潟経営大学(以下、本学と呼ぶ)は、高等教育の機会均等を求める地域住民の強い要望により、経営学に関する専門的知識を基礎に、情報科学に関する専門的知識及び技術の修得を通じ、それらを企業の経営管理に総合的に活かす能力を備え、かつ国際感覚を持った人材の育成を目的として設置された。

本学は、こうした創設の精神に基づき、地域社会の学術の中心として、産業経済、特に経営情報科学に関する専門の学芸を教授研究し、高度情報化並びに国際化社会の進展に応ずる実地的な知識、技術及び教養を授けるとともに、地球的視野において知的、道徳的及び創造的能力を展開させ、国際社会、国家及び地域社会の生活、文化の向上と産業経済の発展に貢献する人材の育成を目的とする。”

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

“経営情報学部経営情報学科では、幅広い教養、知識を身に付け、人格を陶冶することを目指して、企業の経営管理に関する専門知識と情報科学に関する専門知識・技術を体系的に教授する。金属加工や農業など特色ある地場産業を擁する地域の負託に応え、国際化の時代を見据え、地域住民・自治体及び企業との交流を密にし、文化・学術情報の発信基地としての役割を果たし、地域の発展に尽くすことを目指している。

この使命を実現するため、経営情報学科では、地域と緊密に連携した学びを構築し、情報学と経営学の能力を兼ね備え、専門ビジネス分野における実務実践能力を有した、地域経済の中核をなす活力あるビジネスパーソンを育成する。”

（2）教員養成の目標・計画

①大学

“新潟経営大学は、地域の住民や市町村、企業からの強い要望と期待を受け、地域の中核となる人材を育成するために設置された高等教育機関である。そのため、本学の教育が、単に教室内で経営と情報に関する高度な専門知識の教授をするだけには止まらず、日常的に地域住民や企業と交流し合い、協働して実践的な学びを作り上げ、地域に貢献する意欲にあふれた学生を育てることを目指すのは当然のことである。

こうした本学が目指す「地域に根差した実践的な学び」は、学生達や地域の将来に対する様々な夢や生き方の可能性を広げるが、その一つの選択肢として、学んだことを生かして教職に就き、地域に貢献したいと言う希望が生まれるのも、また自然なことである。

本学の学びでは、経営と情報に関する専門性を基盤として、社会の真の豊かさとは何か、産業や企業が人類に貢献できるものはなにか、といった命題を絶えず自覚的に問い続ける。その学びは、そのまま有為な教師を育てることにもつながるものである。国際化と情報化が進み、厳しい挑戦の時代を迎えた今日、地域の本当の価値を見つめ、創造する、実践力と情熱を持った教師を輩出することは、本学の建学の精神をより一層確かなものにするということでもある。

以上のような考えに基づき、本学の学びを一段と深め、地域の負託に応えるため、教職課程を設置するものである。”

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

“経営情報学科が享受する「経営情報学」の学びは、身近な地域の現場に立ちつつ、先見性と広い視野を持って、グローバル化する社会と産業界を、心豊かに生き抜く人間の形成を目指している。経営と情報は、現代社会やビジネスを動かす根幹であると同時に、国際化と情報化の進む厳しい挑戦の時代を生きる現代人にとって必須の教養でもある。地域と地域の人々の営みを、経営と情報の視座から、深く、広く、多面的に学ぶことは、世界と人間を学ぶことでもある。

本学経営情報学科の教職課程は、経営に関する造詣を深め、情報能力に長け、チャレンジ精神旺盛なプロフェッショナルなビジネスパーソンの育成を目指す経営情報学科の学びを基盤に、少人数教育という本学の特色を十分に生かした、実践的な演習形式やICT教育を取り入れた実践的な教育課程となっている。これに加えて、地域の企業や市民のボランティアグループ等と連携した経営に関する共同事業や、地域の学校や福祉施設に対するボランティア活動など、各種の体験学習を組み込みんだ、専門分野とのつながりを生かした行動的・体験的な学習を重視した教育課程を編成している。

複雑化する社会・経済とその背後にある人々の営みに目を向けさせ、経営や情報を学ぶ者の社会的責任を考えさせ、常に自分なりの問題意識を持って行動する教員を養成する。”

（3）認定を受けようとする課程の設置趣旨（学科等ごとに校種・免許教科別に記載）

中学校社会科

経営情報学科の使命は、経営学と情報学の学びを生かして地域の様々な課題の解決に取り組み、改善の方途を提案できる実力を備えた、地域の中核となる人材を育成することである。

そのため、本学経営情報学科の学びは、経営や情報に関する様々な専門科目を深く学び、相互の関連を意味付け、融合することを目指している。専門科目の履修だけではなく、地域の住民や企業・団体と協働し、地域の今日的課題の解決に取り組む場面を数多く設定しているのは、地域の生活の中から、深く透徹したものの見方や考え方を身に付けさせるためである。こうした大学と地域との協働の経験を通して、しっかりとした個の確立と集団の組織が行われ、経営と情報の学びに筋の通ったと芯が出来てくることが期待されるのである。

「経営」や「情報」の学びは、単に企業の収益改善や事業推進・継続の手法や原理を学ぶことではなく、広く、人間社会・地域生活全般に関わる諸課題を探究し、持てる資源を活用・開発し、組織だって問題の解決に努めることを言う。

この意味で、経営情報学科の学びは、生徒に社会生活全般に関わる基本的な知識や理解を与え、平和で民主的な国家の有為な主体形成を目指す中学校・社会科の理念そのものである。

教えることは学ぶことであり、本学の経営情報学科に「中学校・社会科」の教職課程を設置することで、経営と情報の学習が一段と深まり、相互のつながりが密接になることが期待できる。本学の学びに即した「中学校・社会科」の教職課程設置は、本学の専門性を増すことであり、地域の信頼と負託に応え、地域の中核となる人材を育てることに他ならない。

「教育」という視座から、経営学と情報学に関する専門科目と、地域の諸課題との関係を考え、学ぶことは、大学や学部・学科での学びを豊かにし、自己の生き方に対する自覚を深めることにつながると考えられる。こうした教職課程の学生たちの学びは、他の学生たちの学びにも良い刺激を与え、互いの学習が深まるという創発的な関係となることも期待できる。

以上のことから、本学経営情報学科に「中学校・社会科」の教職課程設置を計画するものである。

高等学校公民科

経営情報学科の使命は、経営学と情報学の学びを生かして地域の様々な課題の解決に取り組み、改善の方途を提案できる実力を備えた、地域の中核となる人材を育成することである。

国際化と情報化の進んだ現代の社会においては、「経営」と「情報」は密接不可分の欠くべからざる存在となっており、「経営情報学」の学びの向こうには、地域・社会の市民の生活の営みが広がっていると考えられる。したがって、本学経営情報学科が目指す「経営」や「情報」の学びは、単に企業の収益改善や事業推進・継続の手法や原理を学ぶことではなく、広く、人間社会・地域生活全般に関わる諸課題を探究し、持てる資源を活用・開発し、組織だって問題の解決に努めるきわめて実践的で多様な広がりを持ったものである。

こうした経営情報学の学びを掘り下げ、深い専門性を身に付けることは、多角的・多面的な視野から現代の社会についての理解を深め、人間としてのあり方、生き方を自覚させ、民主的で平和な国家・社会の有為な形成者として必要な公民的資質を養うことを目指す、高等学校・公民科の理念と相通ずるものと言える。

本学の経営情報学科に、高等学校・公民科の教員を目指す教職課程を設置することによって、「教育」という視座から、企業や組織の経営と情報の活用に関する学習を深く関連付け、人間的・社会的・地域的な側面にまで広げることが期待できる。経営と情報の深い見識を備え、市民が本当の意味で個性豊かに生きることを考えさせていく公民科教員を養成することは、経営情報学科の教育課程をより一層、奥深く、豊かなものとし、学生たちに深い気づきを与えるとともに、地域社会からの信頼を増し、本学の設立の理念を一層強固なものとすると考えられる。

以上のことから、本学経営情報学科に高等学校・公民科の教職課程の設置を計画するものである。

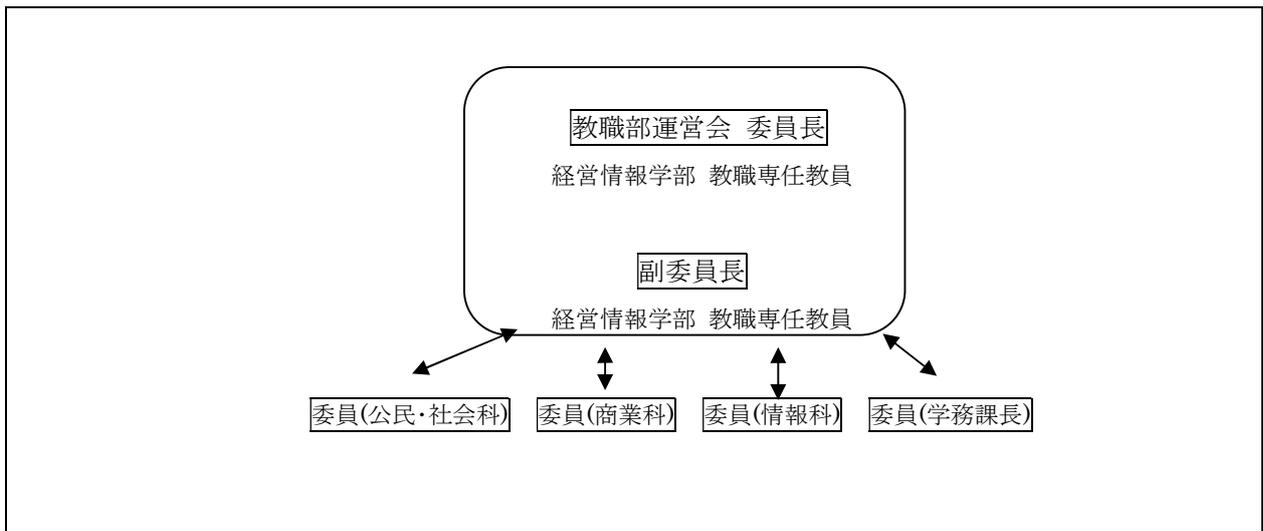
様式第7号イ

I. 教職課程の運営に係る全学的組織及び各学科等の組織の状況

(1) 各組織の概要

組織名称：	教職部運営委員会
目的：	教職課程運営に係る円滑な運営
責任者：	教職部運営委員長
構成員(役職・人数)：	委員長1名、副委員長1名、委員4名(教員3名、職員1名)
運営方法：	月1回の定例委員会の開催、規程に関すること、教職に係るすべての学内案件に対応する。

(2) (1) で記載した個々の組織の関係図



II. 都道府県及び市区町村教育委員会、学校、地域社会等との連携、協力に関する取組

(1) 教育委員会との人事交流・学校現場の意見聴取等

下記「スクールボランティア」の実施について、市の教育委員会の所管課を訪問し説明と協力依頼を行っている。

(2) 学校現場における体験活動・ボランティア活動等

取組名称：	スクールボランティア
連携先との調整方法：	担当教員が訪問や電話連絡により連携先と調整を行っている。
具体的な内容：	連携先の学校における授業、学校給食、部活動等の教育活動の補助

III. 教職指導の状況

新年度において各学年へのガイダンスを実施。ガイダンス以外でも常時履修カルテによる履修状況のチェック、進捗状況の確認、履修指導等を実施。学生からの相談、質問等については教職担当教員及び事務職員により随時受け付けている。

様式第7号ウ

＜経営情報学科＞（認定課程：中学校教諭一種免許（社会））

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・経済、法律等に関する教科を履修し、中学校社会科の教員として必要とされる基礎的な知識を習得する。 ・教職の意義や理念・制度に関する基本的な科目を履修し、子どもの発達や心理・行動の特色など、生徒理解に必要な基礎的知識・理論を習得する。 ・教職についての理解を深め、教職に求められる専門性をとらえ、大学での学びとの関わりを理解し、教職学習の見通しを持つ。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・経済、法律等に関する教科を履修し、中学校社会科の教員として必要とされる基礎的な知識を習得するとともに、視野を広げ、学び方を深める。 ・学習した基礎的事項を元に、中学校社会科の視点から議論し合い、学習の内容を深めるとともに、学習事項相互の関連を理解する。 ・地域社会の諸問題について考察し、地域と現代社会の諸問題との関係について、中学校社会科の教員として必要とされる視座を確かにしていく。
2年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に関する経済的・経営的な思考方法や社会政策等についての専門的な知見を学び、地域と公共の福祉につながる幅広い教養を身に付ける。 ・教育課程や学習指導要領の意味と課題について理解を深め、現代の学校と教員が果たすべき役割について自分の考えを持つことができる。 ・実際の授業場面を想定して、ICT機器を活用した調査と発表を日常的に行い、中学校社会科各分野の学習指導方法と技術を身に付ける。 ・国際分野等に関する科目を履修し、中学校社会科の教員として必要とされる基礎的な知識を取得する。 ・介護等体験を通して、教育現場との関わりを持ち、生徒の実態や教師の指導についての理解を深める。 ・地域や社会の出来事に関心を持ち、これまでに履修した専門科目の知識を生かし、中学校社会科の各分野を指導する立場から、多面的・総合的な見方が出来るよう考察を深める。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校社会科指導の視点から、ホームルーム活動や生徒会活動、学校行事などの「特別活動」指導を考察し、学級担任の立場に立って生徒の自治活動を育てる方法を考える。 ・各講義の演習場面を模擬授業に見立てて、教材研究の方法や問いの立て方、教材作成、生徒の活動のさせ方など、中学校社会科各分野の指導に備えた演習を行う。 ・地域住民やボランティアグループ等との共同事業への参加と協働を通して、地域と地域住民の生きた課題をつかみ、専門分野に関する諸科目と実生活との関係について理解を深める。 ・国際分野等に関する科目を履修し、中学校社会科の教員として必要とされる基礎的な知識を取得する。
3年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・「教科の指導法」を履修し、指導案の立て方と模擬授業・検討会などを通じて、授業者としての心構えを作り、指導技術を学ぶ。 ・スクールボランティア、近隣の学校への見学などの機会を通して、教育現場との関わりを持ち、生徒の実態や教師の指導についての理解を深める。 ・地域や社会の出来事に関心を持ち、これまでに履修した専門科目の知識を生かし、中学校社会科の各分野を指導する立場から、多面的・総合的な見方が出来るよう考察を深める。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・教科の指導法だけでなく、「総合的な探究の時間」など、社会に開かれた教育課程と、主体的で深い学びの実現に向けた授業改善の視点から、中学校社会科の授業の在り方・進め方を考え、様々な角度から指導案の立て方を検討する。 ・「見方・考え方」を、どのような視点から働かせて、どのように思考を進めて行けば、主体的で深い学びになるのか、中学校社会科各分野の各単元の場面に即した教材や展開案を考え、模擬授業と検討会を行う。
4年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習を通して、中学校社会科の指導と学年・学級経営における人間形成の実際について、理解を深め、今後の自己の学習と成長に向けた課題を持つことができる。 ・教育実習での経験を共有し合い、教職課程での学びの意味を省察し、これからの生き方についての指針を持つことができる。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・4年間の教職課程と大学生活での学びを深く省察し、これまでの自己のライフキャリアを振り返り、教職を志す一人として、中学校社会科の指導を通して教育の本質を追求し、学び続ける構えを持つことができる。

様式第7号ウ

＜経営情報学科＞（認定課程：高等学校教諭一種免許（公民））

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・経済、法律等に関する教科を履修し、公民科の教員として必要とされる基礎的な知識を習得する。 ・教職の意義や理念・制度に関する基本的な科目を履修し、子どもの発達や心理・行動の特色など、生徒理解に必要な基礎的知識・理論を習得する。 ・教職についての理解を深め、教職に求められる専門性をとらえ、大学での学びとの関わりを理解し、教職学習の見通しを持つ。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・経済、法律等に関する教科を履修し、公民科の教員として必要とされる基礎的な知識を習得するとともに、視野を広げ、学び方を深める。 ・学習した基礎的事項を元に、公民科の視点から議論し合い、学習の内容を深めるとともに、学習事項相互の関連を理解する。 ・地域社会の諸問題について考察し、地域と現代社会の諸問題との関係について、公民科の教員として必要とされる視座を確かにしていく。
2年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に関する経済的・経営的な思考方法や社会政策等についての専門的な知見を学び、公共の福祉につながる幅広い教養を身に付ける。 ・教育課程や学習指導要領の意味と課題について理解を深め、現代の学校と教員が果たすべき役割について自分の考えを持つことができる。 ・公民科の授業場面を想定して、ICT機器を活用した調査と発表を日常的に行い、公民科学習の指導方法と技術を身に付ける。 ・国際分野等に関する科目を履修し、中学校社会科の教員として必要とされる基礎的な知識を取得する。 ・介護等体験の機会を通して、教育現場との関わりを持ち、生徒の実態や教師の指導についての理解を深める。 ・地域や社会の出来事に関心を持ち、これまでに履修した専門科目の知識を生かし、公民科を指導する立場から、多面的・総合的な見方が出来るよう考察を深める。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・公民科指導の視点から、ホームルーム活動や生徒会活動、学校行事などの「特別活動」指導を考察し、学級担任の立場に立って生徒の自治活動を育てる方法を考える。 ・各講義の演習場面を模擬授業に見立てて、教材研究の方法や問いの立て方、教材作成、生徒の活動のさせ方など、公民科の指導の演習を行う。 ・地域住民やボランティアグループとの共同事業への参加を通して、地域と地域住民の生きた課題をつかみ、大学での専門分野に関する学びと実生活との関係について理解を深める。 ・国際分野等に関する科目を履修し、中学校社会科の教員として必要とされる基礎的な知識を取得する。
3年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・「教科の指導法」を履修し、指導案の立て方と模擬授業と検討会などを通じて、授業者としての心構えを作り、指導技術を学ぶ。 ・スクールボランティア、近隣の学校への見学などの機会を通して、教育現場との関わりを持ち、生徒の実態や教師の指導についての理解を深める。 ・地域や社会の出来事に関心を持ち、これまでに履修した専門科目の知識を生かし、公民科を指導する立場から、多面的・総合的な見方が出来るよう考察を深める。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・教科の指導法だけでなく、「総合的な探究の時間」など、社会に開かれた教育課程と、主体的で深い学びの実現に向けた授業改善の視点から、公民科の授業の在り方・進め方を考え、様々な角度から指導案の立て方を検討する。 ・「見方・考え方」を、どのような視点から働かせて、どのように思考を進めて行けば、主体的で深い学びになるのか、公民科の各単元の場面に即した教材や展開案を考え、模擬授業と検討会を行う。
4年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習を通して、公民科の指導と学年・学級経営における人間形成の実際について、理解を深め、今後の自己の学習と成長に向けた課題を持つことができる。 ・教育実習での経験を共有し合い、教職課程での学びの意味を省察し、これからの生き方についての指針を持つことができる。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・4年間の教職課程と大学生活での学びを深く省察し、これまでの自己のライフキャリアを振り返り、教職を志す一人として、高等学校公民科の指導を通して、常に教育の本質を追求し、学び続ける構えを持つことができる。

様式第7号ウ（教諭）

＜経営情報学科＞（認定課程：中学校教諭一種免許（社会））

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等			教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	前期	2	C	教職概論	日本史		日本国憲法	
		2	G	教育課程論	地理学(国内)		スポーツ&レジャー	
					法学		中国語 初級 I	
					地誌		韓国語 初級 I	
					社会学		ロシア語 初級 I	
					哲学・倫理学		コンピュータリテラシー入門	
	後期	2	E	教育心理学	外国史		中国語 初級 II	
		2	D	教育経営論	地理学(海外)		韓国語 初級 II	
		2	B	教育原理	政治学		ロシア語 初級 II	
					経済学の基礎		データサイエンス入門	
					現代文化論			
					宗教学			
2年次	前期	2	F	特別支援教育	経済学原論 I (マクロ)	介護等体験		
		3	Q	教育方法論(情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む)	国際取引法	教職実践指導法 I		
		3	LN	生徒指導論(進路指導含む。)		スクールボランティア		
	後期	3	IJ	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	経済学原論 II (ミクロ)			
		3	M	教育相談(カウンセリングを含む。)	国際経済論	教職実践指導法 II		
		2	B	教育史				
		3	H	道徳教育指導論				
3年次	前期	1	A	社会科教育法 I (地歴分野)		教職特別演習 I		
	1	A	社会科教育法 II (公民分野)		教職特別演習 II			

	後期	1	A	社会科・公民科教育法				
4年次	前期	4		事前・事後指導				
		4		教育実習Ⅰ				
		4		教育実習Ⅱ				
	後期	4		教職実践演習(中・高)				

4年次	前期	4		事前・事後指導					
		4		教育実習Ⅰ					
		4		教育実習Ⅱ					
	後期	4		教職実践演習(中・高)					